

子供のころからテレビや漫画で慣れ親しんでいるせいか、ロボットという
うと強くて、優しくて、人間の味方であるという人間型のロボットを思い浮
かべます。現在、この分野における日本の研究は世界の最先端をいっ
ているそうです。

卵をきれいに割ることができたり、きゅうりをナイフで切ったりするこ
とができます。また、コップの中身をこぼさずに運んだり、複数の人間の
中から話をしている人を認識して、その人のほうを向いて相づちを打っ
たりと、多種多様のロボットが開発されているようです。また、気持ち
を読み取るものや、人間とぶつかっても事故が起きないような材質に工
夫を凝らした、人間と共存していくものの研究も進められています。し
かし、これらのロボットは限られた範囲での作業はできても、持っている
機能をその場に応じて使う知能は、まだ十分開発されていません。

ある研究者は「人間は、ついロボットが何でもできるものだ」と期待してし
まうが、両者は足りない部分を補い合う関係が望ましい」と話し
ています。それにしてもこの研究が進めば進むほど、人間が精巧にで
きていることが分かり、本当に感心させられてしまうそうです。

多くの機関が独自に開発を進めていますが、その構造や制御法といっ
た基礎の部分は公開して、頭脳にあたるコンピュータのプログラムの独
創性を互いに競い合えば、生活を支援してくれるロボットが数年後にも
実現するのではないのでしょうか。